

ちば・いちご産地活性化事業

実績額 7,698 千円 (うち交付金 3,849 千円)

1 事業の目的・概要

県が開発した、いちごの新品種「チーバベリー」は、平成 29 年春の本格販売に向けて平成 27 年度から愛称募集を行い、イベントでの試食などによる認知度向上に取り組み、大きな反響を得た。

平成 30 年度は、引き続きイベントなどによる PR 活動に取り組みとともに、外国人観光客の受入れ体制やホテル・飲食店との連携を強化することで、いちご生産者の所得向上・県内観光客の増加・地域の活性化を図った。

2 事業の内容

(1) 観光いちご狩り園及びホテル・飲食店と連携したフェアの開催

内 容：国内外への情報発信を目的に、首都圏在住の外国人、日本人インフルエンサーを招いた、「ちば・いちごフェア 2019～キック・オフ・イベント&チーバベリーツアー～」を開催した。知事による PR、県産いちごの紹介やいちご狩りツアーのほか、県内外のホテル・飲食店と連携したいちごスイーツのフェアを行った。

開催日：平成 31 年 1 月 15 日 (火)

場 所：幕張メッセ国際会議場

実 績：参加 60 名 (報道関係者、関係団体など)



(2) 外国人観光客受入環境整備

内 容：訪日外国人向けおもてなし向上研修会を開催するとともに、外国人観光客に対し「いちご狩り」の注意事項を説明するためのインバウンドポスター(ベトナム語版)を作成し配付した。

開催日：平成 30 年 11 月 8 日 (木)

場 所：東京ベイプラザホテル

実 績：研修会参加者 113 名
ポスター発行部数 500 部



(3) 地域イベント等との連携

県関係各課、各地域のイベントと連携したプロモーションを実施し、県産いちごの魅力を発信した。

【主なイベント等】

- ・「あなたの LOVE♥CHIBA 教えてキャンペーン Season5」(1~3 月県主催)
- ・YOKOHAMA Strawberry Festival (2 月 1 日、7 日、横浜赤レンガ倉庫)
- ・いちごの里さんむ S 1 グランプリ (3 月 30 日、山武市)

事業名	ちば・いちご産地活性化事業	
担当課	農林水産部流通販売課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：②力強い農林水産業の確立	
【本事業における重要業績評価指標（KPI）】		
指標名	実績値	目標値
いちご狩り園来園者数	+28,890 人	+13,000 人
【事業効果の判定】		
①地方創生に非常に効果的であった (例: 全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) ②地方創生に相当程度効果があった (例: 一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) ③地方創生に効果があった (例: KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) ④地方創生に対して効果がなかった (例: KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したと言えないような場合)		
【要因・課題】（取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた目標達成に必要な課題）		
<ul style="list-style-type: none"> ・テレビや新聞などのメディアで、「チーバベリー」が 156 件紹介されるなど（10 月～4 月末）、大きな反響があった。この効果を県産いちご全体や地域の観光・商工業者に波及させ、地域全体の活性化を図っていった。 ・平成 29 年からの地方創生の取組の効果により、いちご狩り園の来園者の増加から、補助事業を活用して 12 件のいちご農家でハウスの増設があった（107a）。 ・継続的な地域活性及びいちご生産者の所得向上に向け、平成 30 年度までの取組について生産者への周知を図り、県主体でなく、生産者が主体となり、観光客誘致に向けた PR 活動をできるようにする必要がある。 		
【改善策・取組方針】（要因・課題を踏まえた具体的な取り組み（31 年度に向けた取組の修正・改善））		
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29～30 年では、県内でのキックオフイベントを実施してきたが、更なる KPI の達成を図るために、首都圏にて、直接消費者に県産いちごの PR を実施する。 ・事業効果が得られたことから、今後は、県内のいちご生産者の組織にて、活動内容の周知を図り、PR 活動を行っていくための事業継承を図る。 		